

LIVUS

インテリアオープン収納
[リビラス]

施工説明書

必ずお読みください

施工される方へ

施工前に製品をよくお確かめください。

品質管理には万全を期していますが、万一品質に不都合な点がございましたら、販売店様または弊社営業まですぐにご連絡ください。施工前の製品に限り、販売店様を通じて代替品と交換させていただきます。施工後の交換、補修はいたしかねますので必ず施工前にご確認をお願いします。

ご注意

ご使用になる前に必ずこの「施工説明書」をご一読いただきますよう、お願いいたします。間違った施工を行ないますと製品の品質劣化や損傷につながる可能性があります。本書に従わず施工を行なった場合については、当社での保証はしかねますのでご注意ください。

施工上のご注意



屋外禁止

内装専用の製品です。屋外での使用はできません。



キズ注意

施工時に部材表面をキズつけないようご注意ください。



水・湿気禁止

屋内でも直接水のかかる場所や湿度の高い場所での使用はしないでください。



火気厳禁

木質製品です。火気の取り扱いには充分お気をつけください。



反り・ねじれ厳禁

躯体に使用する木材は乾燥材で垂直な物を選んでご使用ください。



溶剤厳禁

溶剤・薬品・油・インク等が付着しないようご注意ください。付着した場合はすぐに拭き取ってください。放置するとシミ・変色・劣化の原因となります。

目次

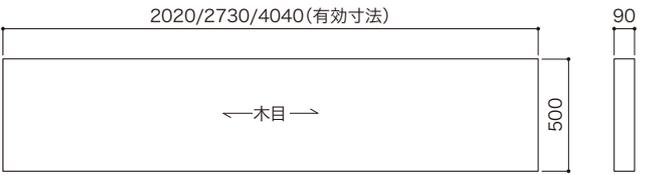
製品図面・パーツセット明細	1~3
施工前の確認事項	4
施工手順	4~22
リビラス90・60・40 [両壁納め]	4~7
リビラス90・60 [片側・両側オープン]	8~13
リビラス40 [片側・両側オープン]	14~16
配線孔キャップ	16
シェルフボックスB併用の場合	17~22

製品図面

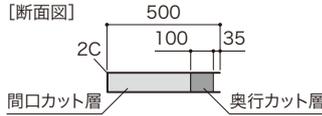
寸法単位:mm

リブラス90プラン用パーツ 以下のパーツがすべて揃っているかをご確認ください。

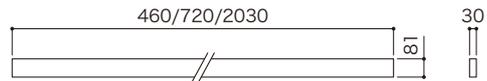
リブラス90



部品	施工・取扱説明書	耐荷重シール
	各1式	1枚

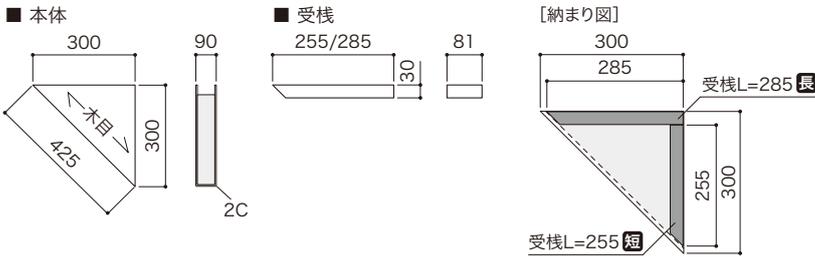


受棧セット90 (本体用・追加用)



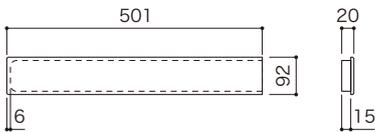
部品	タイプ	受棧L=2030	受棧L=720	受棧L=460	ビスL=65
		4M本体用	2		2
9尺本体用	1		1	2	32
2M本体用	1			2	20
4M・9尺・2M 共通追加用				2	8

トライアングラー90



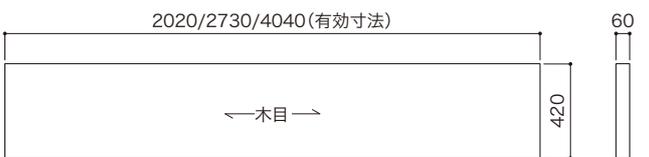
部品	受棧L=285 長	受棧L=255 短	ビスL=65	ビスL=40
		1	1	4

エンドキャップ90 インナータイプ 1個入(左右兼用)

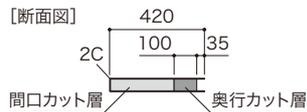


リブラス60プラン用パーツ 以下のパーツがすべて揃っているかをご確認ください。

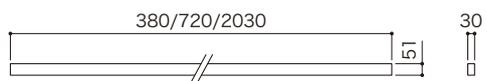
リブラス60



部品	施工・取扱説明書	耐荷重シール
	各1式	1枚

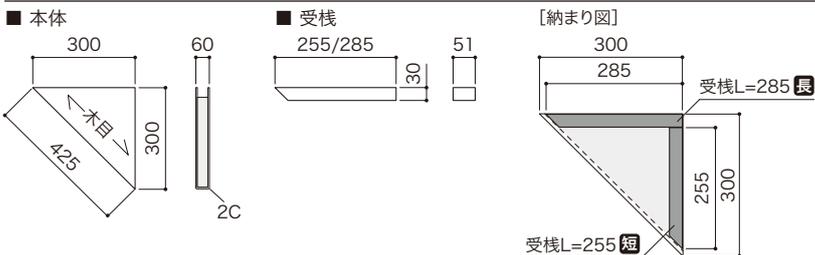


受棧セット60 (本体用・追加用)



部品	タイプ	受棧L=2030	受棧L=720	受棧L=380	ビスL=65
		4M本体用	2		2
9尺本体用	1		1	2	32
2M本体用	1			2	20
4M・9尺・2M 共通追加用				2	8

トライアングラー60



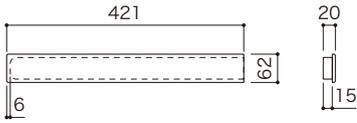
部品	受棧L=285 長	受棧L=255 短	ビスL=65	ビスL=40
		1	1	4

製品図面

寸法単位:mm

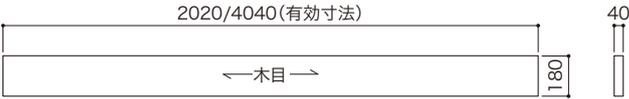
リブラス60プラン用パーツ 以下のパーツがすべて揃っているかをご確認ください。

エンドキャップ60 インナータイプ 1個入(左右兼用)

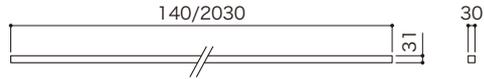


リブラス40プラン用パーツ 以下のパーツがすべて揃っているかをご確認ください。

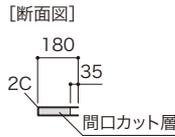
リブラス40



受棧セット40 (本体用・追加用)

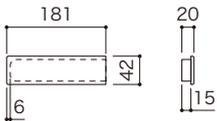


部品	施工・取扱説明書	耐荷重シール
	各1式	1枚



部品	タイプ	受棧L=2030	受棧L=140	ビスL=65
		4M本体用	2	2
2M本体用	1	2	10	
4M・2M共通追加用			2	8

エンドキャップ40 インナータイプ 1個入(左右兼用)



共通パーツ

配線孔キャップセットφ45 (t90/60/40)

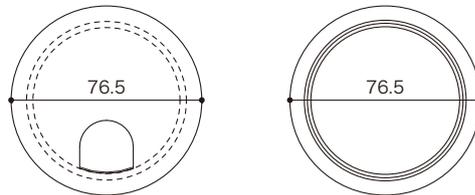
■ 配線孔キャップ ■ 配線孔スリーブ



※φ39の下穴に対応しています。

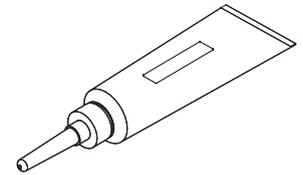
配線孔キャップセットφ76.5 (t90/60)

■ 配線孔キャップ ■ 配線孔スリーブ



※φ65の下穴に対応しています。

コーキング材

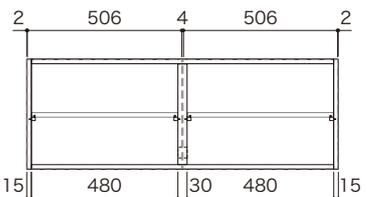
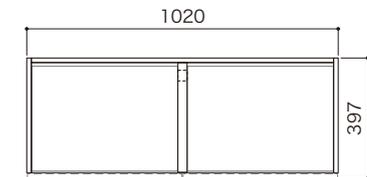


内容量:100g 約5m分(参考値)
※リブラス90本体幅4Mの場合、棚板上面3方向が約1本分相当です。

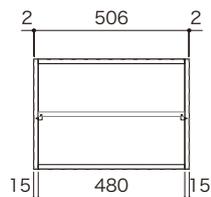
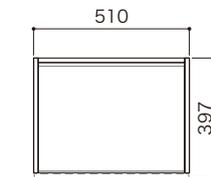
ボックスパーツ 以下のパーツがすべて揃っているかをご確認ください。

シェルフボックスB

■ W1020

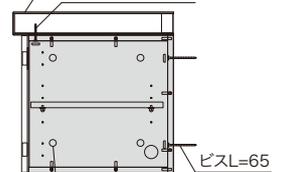


■ W510



シェルフボックスB (リブラスとの納まりイメージ)

リブラス90・60 (405~420mmにカット)
ビスL=41(天板用)



ボックス同士 ビスL=28(連結用)
壁際 ビスL=65(側板用)

部品	サイズ	ビスL=65	ビスL=41	ビスL=28	ビスキャップセット	ツノ付可動棚受セット	ボックス配線孔かくし
		W1020	12(背8+側4)	3(天)	4(連結)	19	8
W510	8(背4+側4)	2(天)	4(連結)	14	4		

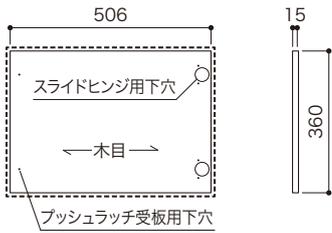
【ビス本数表現】
背:背板に対して打つビス/側:側板に対して打つビス
天:天板に対して打つビス/連結:ボックス同士の連結用ビス

製品図面

寸法単位:mm

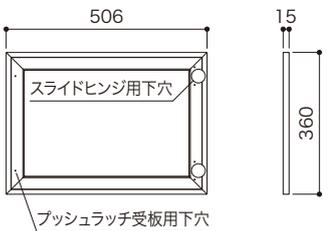
ボックスパーツ 以下のパーツがすべて揃っているかをご確認ください。

シェルパネル 1枚入(左右兼用)



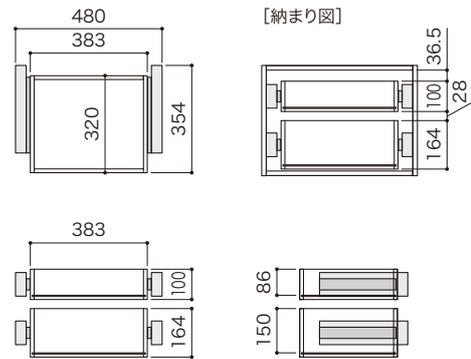
部品	スライドヒンジ	座金	プッシュラッチ	プッシュラッチ受板	薄型面付アタッチメント	ヒンジ用ビスL=13.5	サラビスL=14	トラスビスL=16	ビスL=12
	2	2	1	1	1	8	2	2	1

シェルアルミパネル 1枚入(左右兼用)



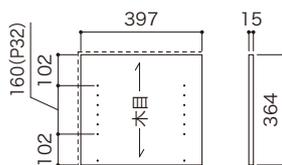
部品	スライドヒンジ	座金	プッシュラッチ	プッシュラッチ受板	薄型面付アタッチメント	ネジL=8	トラスビスL=12	トラスビスL=16	ネジL=8
	2	2	1	1	1	4	4	2	1

ドロワーユニット



部品	トラスビスL=45	位置だしピン
	12	8

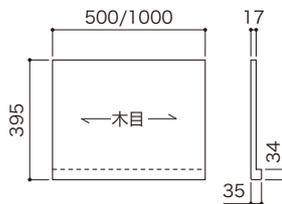
ボックスエンド ショート



部品	ビスL=28	ビスキャップセット
	8	8

図は左用(ボックスエンドを化粧面として使用する場合)右用は左右反転

シェルフ



部品	ダボ穴用ピン	耐震用棚板ストッパー
	受本体 4	受本体 ビスL=20 2

耐震ラッチ

部品	本体	ラッチ受け	ビス
	2個	2個	4本

施工前の確認事項

●本体と受棧は接着剤固定となります。

①接着剤は床貼用のウレタン系または変成シリコン系接着剤(現場調達)をご使用ください。
酢酸ビニール樹脂系不可。周辺に接着剤がつかないように養生をしっかりと行ってください。
塗布量目安:ノズル穴径6mmで1列

②硬化まで最低24時間必要なため、フィニッシュネイルや隠し釘を打ち支柱等で支え水平を保持してください。

●施工はクロス貼り前に行なってください。

●受棧および本体取付位置には12mm厚以上の下地合板による補強が必要です。

●施工終了・養生後、クロス仕上げ時に必ず製品周辺のコーキング仕上げを行なってください。

●受棧への差込施工のため、両壁納めの場合は手前スペースに本体奥行の2倍の空間が必要になります。設計・施工の順番にご注意ください。

●本体奥行カットは-100mmまで対応です。

施工手順

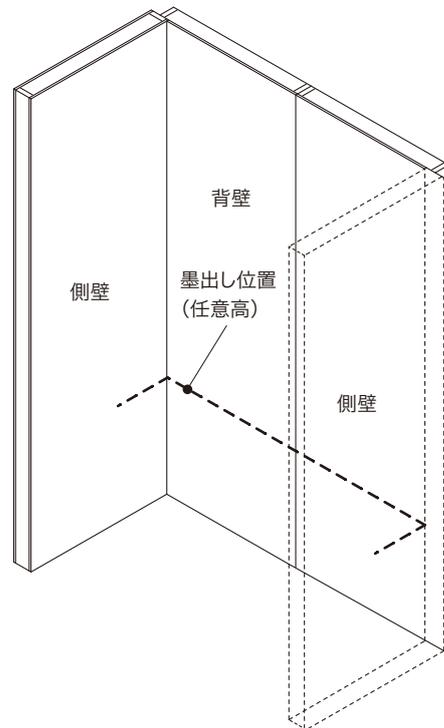
寸法単位:mm

A リビース90・60・40 [両壁納め]

1 受棧の取り付け

1 取り付け位置の墨出し

背壁に任意の高さで受棧取り付け位置を墨出ししてください。(本体上面-4mm)

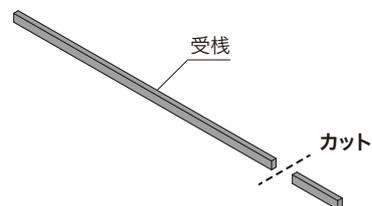


2 受棧のカット

受棧を間口寸法-5mmでカットしてください。

リビース90・60:

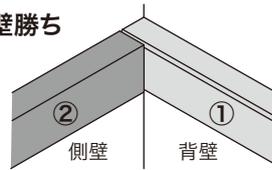
施工のポイント 背壁用の受棧は、取り付け前に面取り(約2~3C)をしておくと、本体の差し込みがスムーズに行なえます。



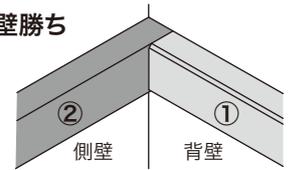
！ 厳守する

製品は、「背壁勝ち納め」の設定です。
側壁勝ちで施工すると、側壁用受棧の長さが
足りなくなり、施工後にリビラス本体の先端が
垂れるおそれがあります。

○ 背壁勝ち



✕ 側壁勝ち

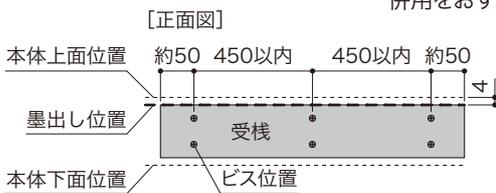


3 背壁への受棧取り付け

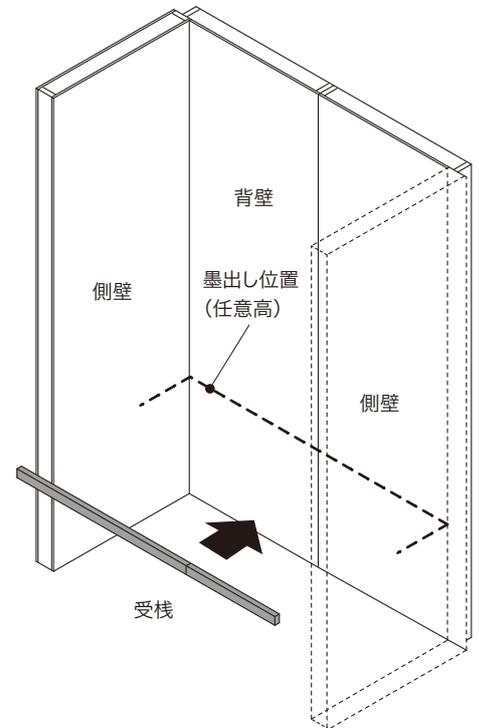
同梱のビスL=65で両端は側壁から約50mmの位置に、その他は450mmピッチ以内で
固定してください。

リビラス90・60: 上下2箇所を固定

リビラス40: 中心1箇所を固定 …… 確実に取り付けるため、接着剤(現場調達)の
併用をおすすめします。



※図はリビラス90の場合を表記しています。



ご注意

●高さ・水平・受棧のコケに注意。



●リビラス40は特に受棧の取り付け
向きにご注意ください。

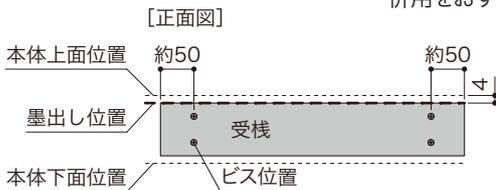


4 側壁への受棧取り付け

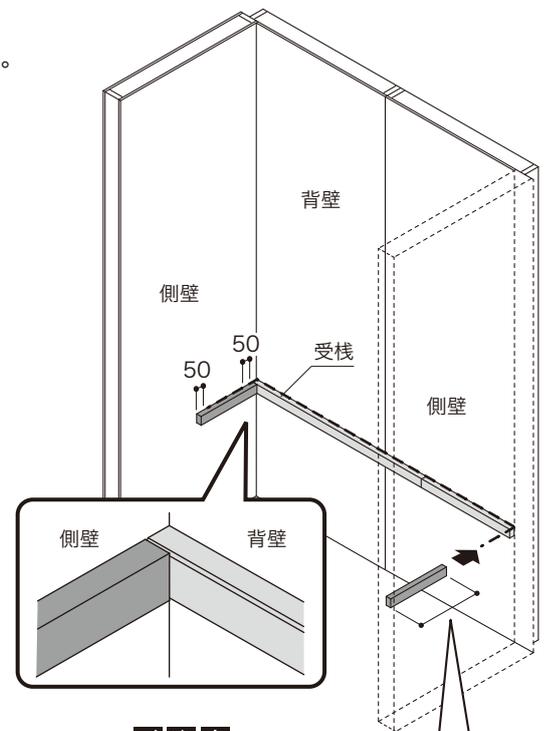
背壁の受棧に突き合わせ、同梱のビスL=65で両端から約50mmの位置で固定してください。

リビラス90・60: 上下2箇所を固定

リビラス40: 中心1箇所を固定 …… 確実に取り付けるため、接着剤(現場調達)の
併用をおすすめします。



※図はリビラス90の場合を表記しています。



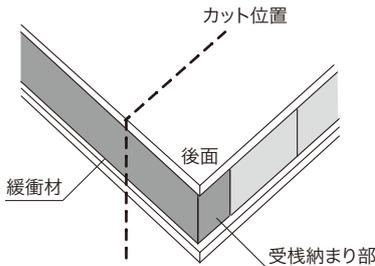
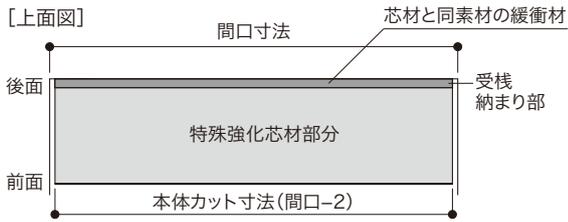
ご注意

本体を奥行カットして使用する場合は、
受棧を本体奥行-40mmでカットして
ください。

例=本体奥行:450mm
受棧:410mmにカット

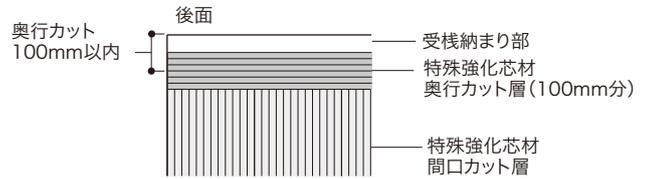
2 本体のカット

間口 本体を間口寸法-2mmでカットします。



奥行 奥行カットが必要な場合は、取付奥行に合わせてカットします。リビース90・60は100mmまで対応。

[上面図]



注意

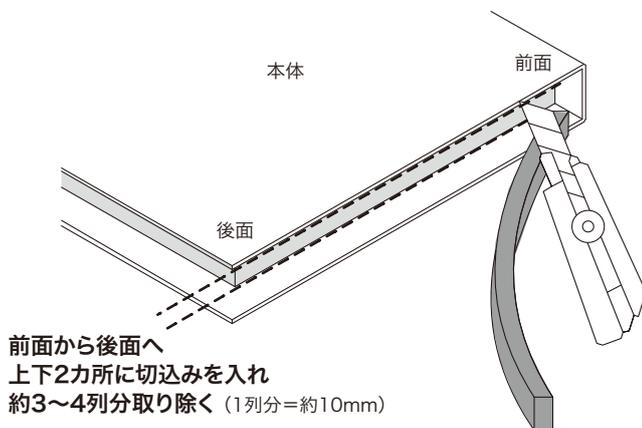
リビース90・60は奥行カット対応のため、100mmまでの奥行カット層を設けています。100mm以上カットすると繊維方向が変わり芯材が取り除きにくくなります。(リビース40:間口カット層のみのため奥行カット非対応)

注意

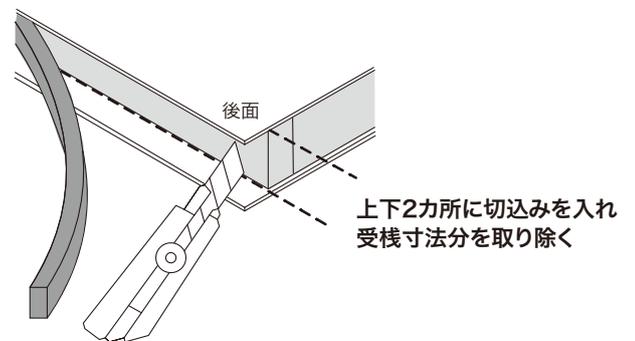
必ず緩衝材を取り付けたままカットしてください。取り除いた空の状態では正確な寸法でカットできないことがあります。

3 特殊強化芯材の取り除き

間口 受栈納まり部を作るため、特殊強化芯材を1列分毎に前面から後面方向・上下2カ所にカッターで切込みを入れ、受栈寸法分の約3~4列を取り除いてください。



奥行 奥行カットをした場合は、後面に受栈納まり部を作るため、上下に切込みを入れ、受栈寸法分を取り除いてください。



注意

それぞれ受栈端材を当て、サイズを確認しながら行ってください。取り除き面はカッター等で削り平滑にしてください。

4 本体の取り付け

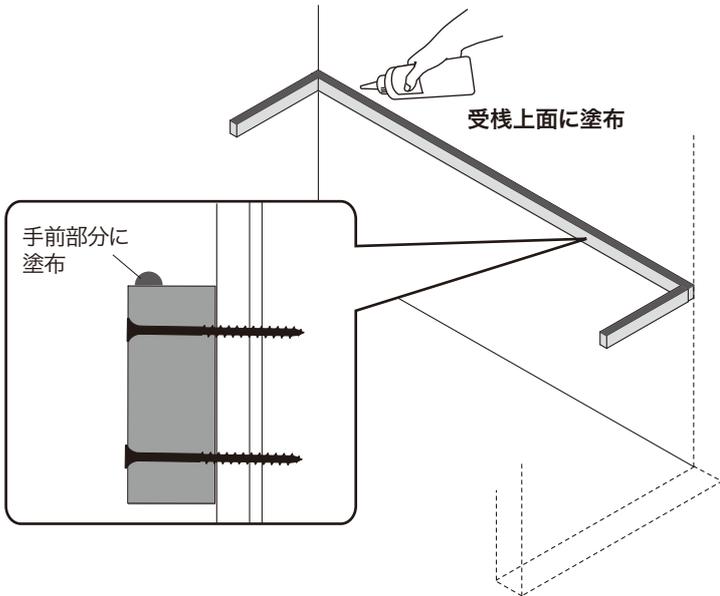
！ 厳守する

接着剤は、受棧上面部と本体下部の両方に塗布してください。
本書に記載している位置に定められた量の接着剤を塗布しないと、受棧と本体が接着せず、垂れるおそれがあります。

1 受棧部 接着剤塗布

受棧上面部分・手前側に接着剤(現場調達)を塗布します。

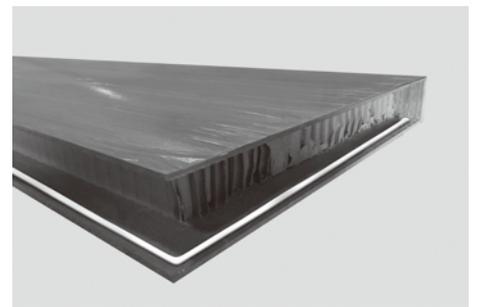
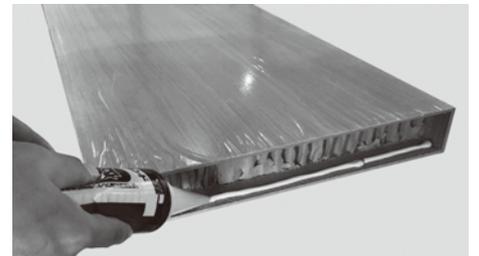
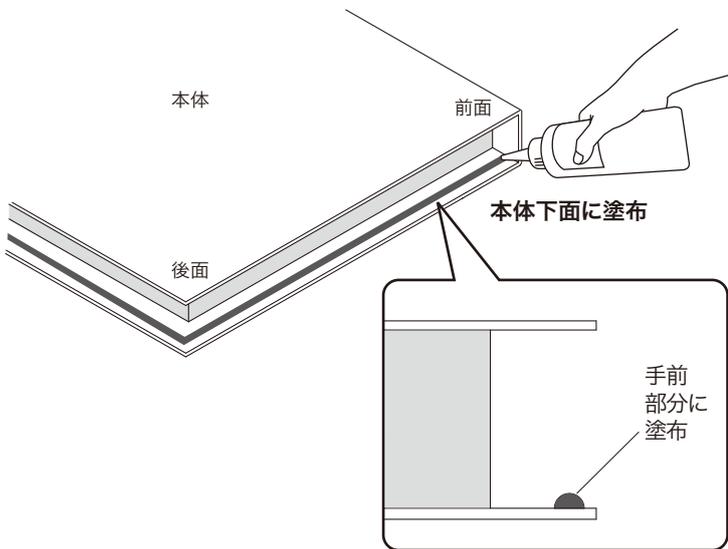
[施工イメージ]



2 本体部 接着剤塗布

本体下面部分・手前側に接着剤(現場調達)を塗布します。

[施工イメージ]



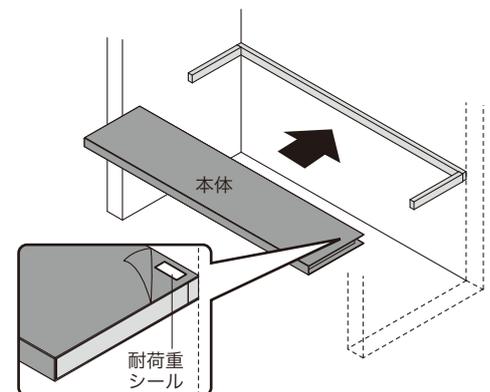
3 本体取り付け 完成

受棧にそって本体を差し込みます。奥まで差し込み、はみ出した接着剤をウエス等できれいに拭き取ってください。

水平器等で水平確認を行ないフィニッシュネイルや隠し釘等を使用し仮固定します。受棧下部の接着剤がなじむように支柱等を入れ圧着してください。

同梱されている耐荷重シールを本体上面奥の角部に保護フィルムを剥がし貼ってください。

※保護フィルムは戻してください。



ご注意

段ボール等で表面保護し、最低24時間静置・養生してください。

養生後、周辺作業も終わっていただければ保護フィルムを剥がしてください。

B リビラス90・60 [片側・両側オープン]

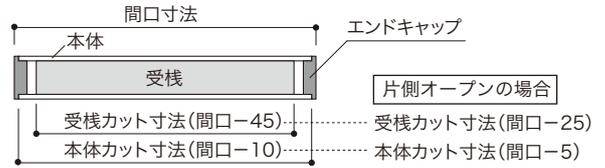
●説明は両側オープンの施工手順です。

片側オープンの場合は **A** **B** の応用で施工してください。

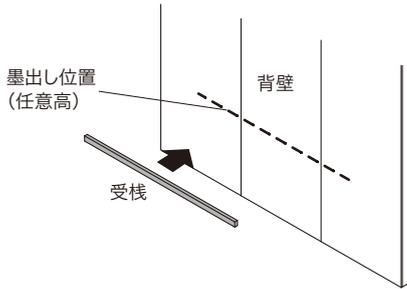
●取り付けの間口に対する、本体・受棧・エンドキャップの寸法は右記の通りです。これを参考に施工を進めてください。

納まりについて [片側・両側オープン]

[断面図] 両側オープンの場合



1 受棧の取り付け



1 取り付け位置の墨出し

背壁に任意の高さで受棧取り付け位置を墨出ししてください。(本体上面-4mm)

2 受棧のカット

受棧をカットしてください。両側オープンの場合:間口寸法-45/片側オープンの場合:間口寸法-25 (詳細は上記 **納まりについて[片側・両側オープン]** 参照)

施工のポイント 背壁用の受棧は、取り付け前に面取り(約2~3C)をしておくと、本体の差し込みがスムーズに行なえます。



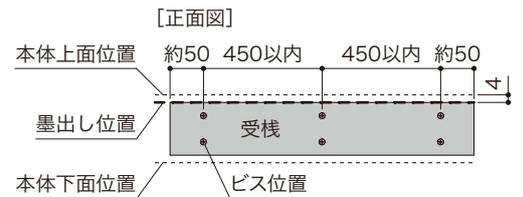
注意

高さ・水平・受棧のコケに注意。



3 背壁への受棧取り付け

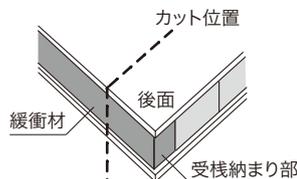
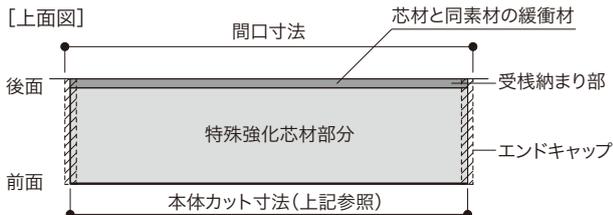
同梱のビスL=65で上下2箇所を固定します。両端は側壁から約50mmの位置で固定、その他は450mmピッチ以内で固定してください。



2 本体のカット

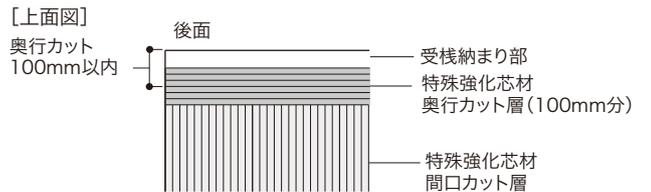
間口 本体を間口寸法に合わせカットします。

(詳細は上記 **納まりについて[片側・両側オープン]** 参照)



奥行

奥行カットが必要な場合は、取付奥行に合わせカットします。リビラス90・60は100mmまで対応。



注意

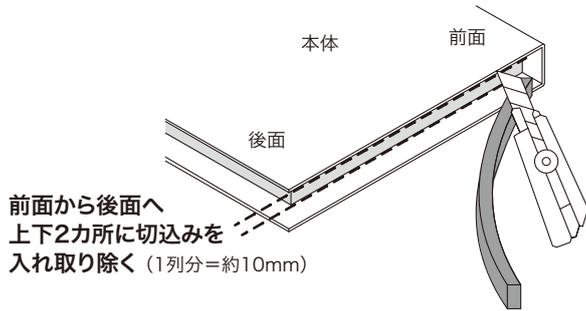
リビラス90・60は奥行カット対応のため、100mmまでの奥行カット層を設けています。100mm以上カットすると繊維方向が変わり芯材が取り除きにくくなります。

注意

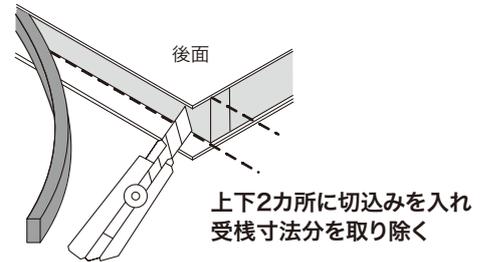
必ず緩衝材を取り付けたままカットしてください。取り除いた空の状態では正確な寸法でカットできないことがあります。

3 特殊強化芯材の取り除き

間口 特殊強化芯材を1列分毎に前面から後面方向・上下2カ所にカッターで切込みを入れ、取り除いてください。納まりにより取り除く寸法が異なりますのでご注意ください。(下図参照)



奥行 奥行カットをした場合は、後面に受棧納まり部を作るため、上下に切込みを入れ、受棧寸法分を取り除いてください。



両側オープンの場合	<p>エンドキャップのみみみ分15mmを取り除いてください。</p> <p>[断面図]</p>
片側オープンの場合	<p>壁で納める側は受棧寸法分30mmを取り除き、エンドキャップで納める側はエンドキャップのみみみ分15mmを取り除いてください。</p> <p>[断面図]</p>

注意

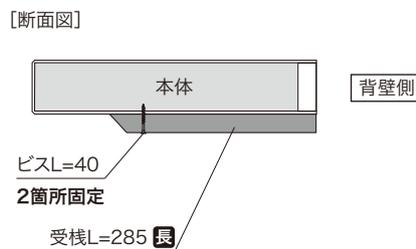
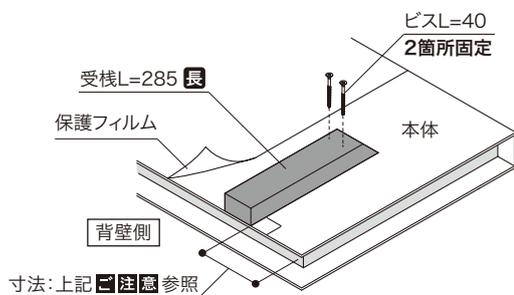
それぞれ受棧端材やエンドキャップを当て、サイズを確認しながら行なってください。取り除き面はカッター等で削り平滑にしてください。

4 受棧(トライアンダー用)の取り付け

本体の裏面の保護フィルムをはがして、受棧L=285 **長** をビスL=40で2箇所固定します。
接着剤または両面テープ併用を推奨(現場調達)

注意

- 受棧はトライアンダー本体に同梱されています。受棧L=285 **長** と受棧L=255 **短** がありますので取り付けの際はご注意ください。
- 下図を参考に、受棧L=285 **長** をリブピアス本体端から15mm以上299mm以内に本体と直角になるように取り付けてください。



5 本体の取り付け

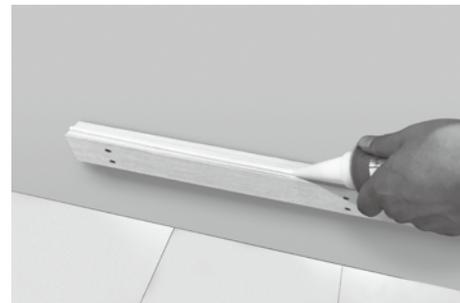
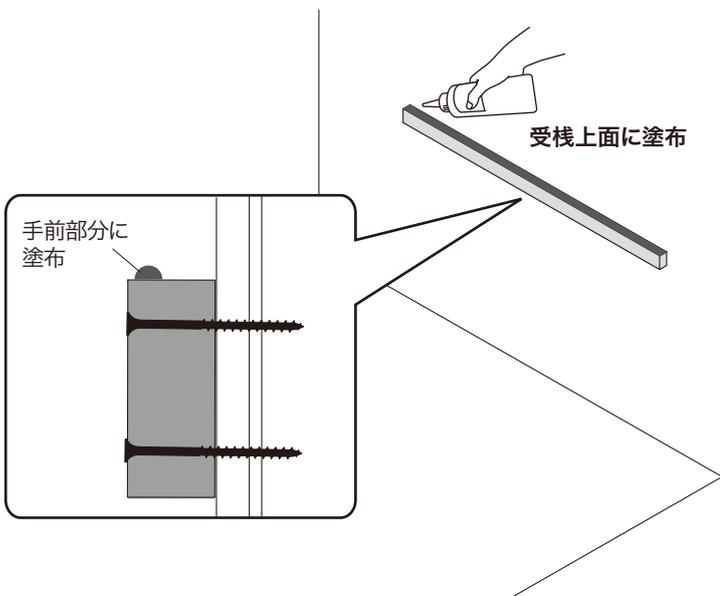
❗ 厳守する

接着剤は、受棧上面部と本体下部の両方に塗布してください。
 本書に記載している位置に定められた量の接着剤を塗布しないと、受棧と本体が接着せず、垂れるおそれがあります。

1 受棧部 接着剤塗布

受棧上面部分・手前側に接着剤(現場調達)を塗布します。

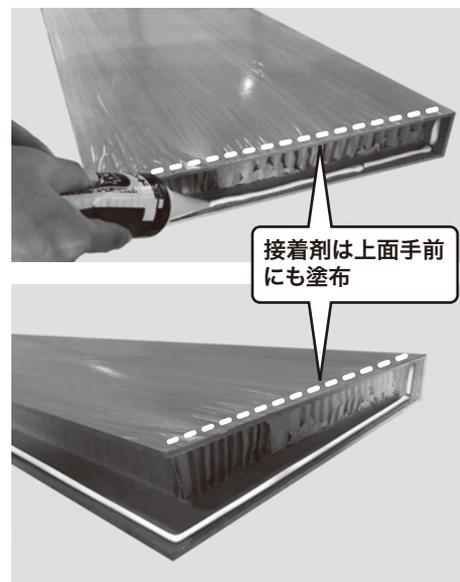
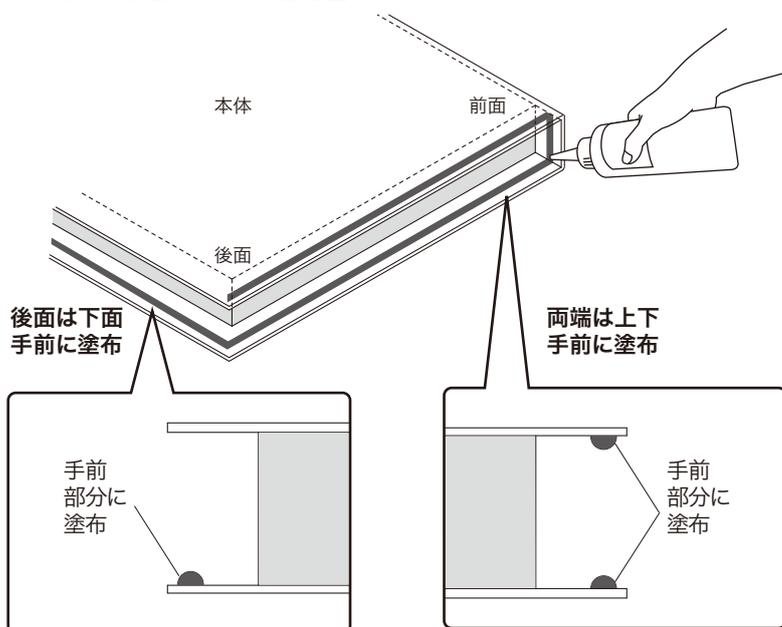
[施工イメージ]



2 本体後面・両端部 接着剤塗布

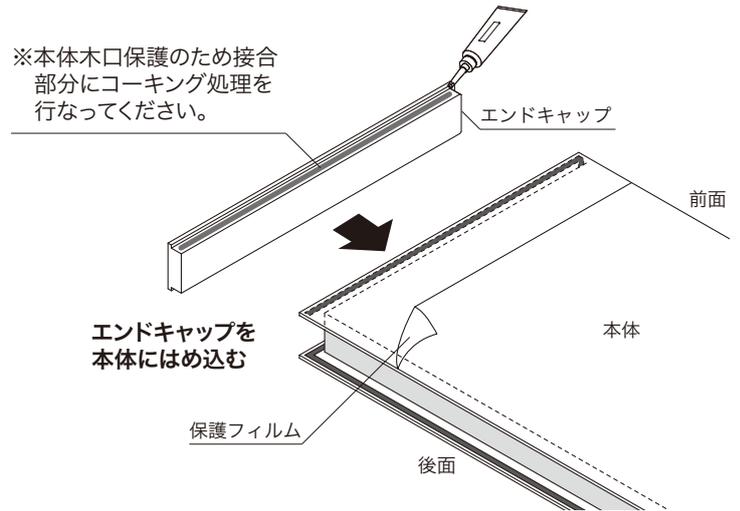
本体各部に接着剤(現場調達)を塗布します。

[施工イメージ]



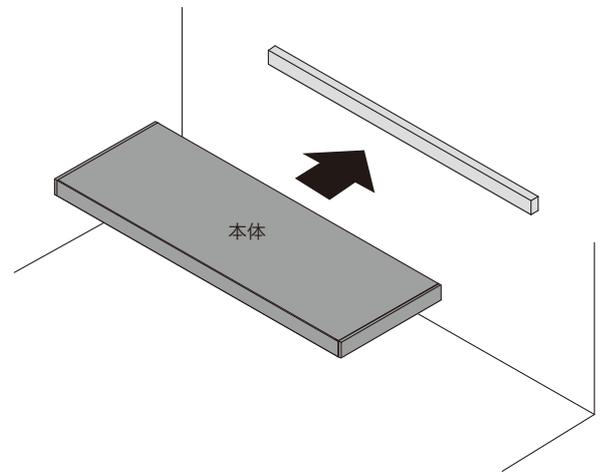
3 エンドキャップ取り付け

本体両端の保護フィルムをはがしてエンドキャップを固定してください。本体奥行をカットした場合、エンドキャップも同寸法分カットしてください。



4 本体取り付け

エンドキャップの付いた本体を受棧に差し込みます。はみ出した接着剤をウエス等できれいに拭き取ってください。

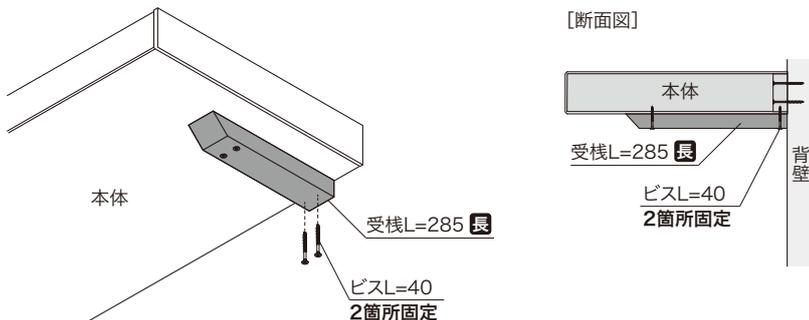


6 トライアングラーの取り付け

1 受棧L=285長 の固定

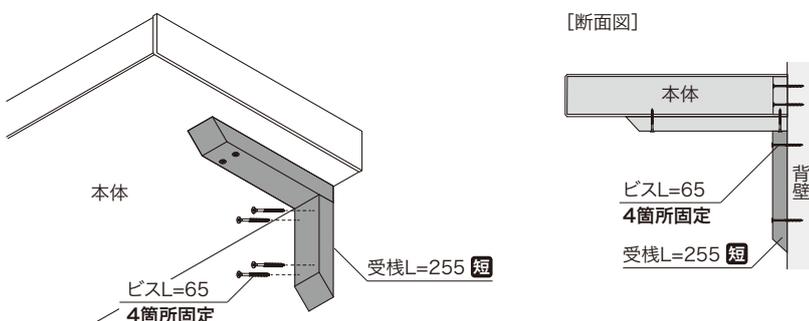
受棧L=285長 下面からリブラス本体背壁側の受棧に向かってビスL=40で2箇所固定してください。

※受棧L=285長 は先に本体に取り付けておいてください。(4 受棧(トライアングラー用)の取り付け P9 参照)



2 受棧L=255短 の固定

受棧L=255短 を背壁に向かってビスL=65で4箇所固定してください。

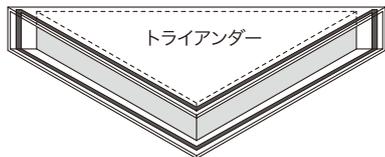


注意

受棧はトライアングラー本体に同梱されています。受棧L=285長 と受棧L=255短 がありますので取り付けの際はご注意ください。

3 トライアングラー 接着剤塗布

トライアングラーに接着剤(現場調達)を塗布します。

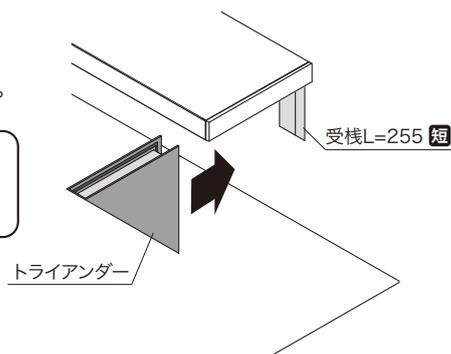


4 トライアングラー取り付け

トライアングラーを前から差し込みます。はみ出した接着剤は拭き取ってください。

ご注意

はみ出した接着剤が床面に落ちないように、注意してください。



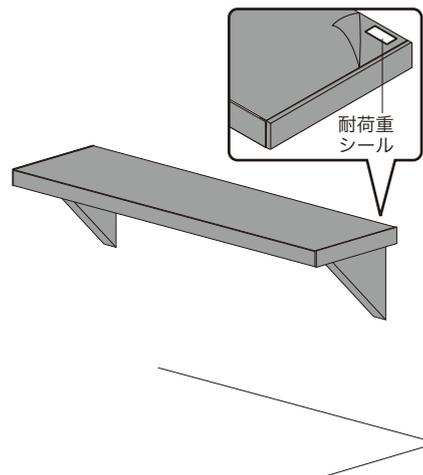
5 完成

水平器等で水平確認を行ない、リピース本体及びトライアングラーをフィニッシュネイルや隠し釘等を使用し仮固定します。受棧下部の接着剤がなじむように支柱等を入れ圧着してください。同梱されている耐荷重シールを本体上面奥の角部に保護フィルムを剥がし貼ってください。※保護フィルムは戻してください。

ご注意

段ボール等で表面保護し、最低24時間静置・養生してください。

養生後、周辺作業も終わってれば保護フィルムを剥がしてください。



本体をカットし、支柱として設置する場合

1 受棧の取り付け

施工手順詳細: 1 受棧の取り付け P8

2 本体のカット

施工手順詳細: 2 本体のカット P8

3 特殊強化芯材の取り除き

施工手順詳細: 3 特殊強化芯材の取り除き P9

4 本体の取り付け

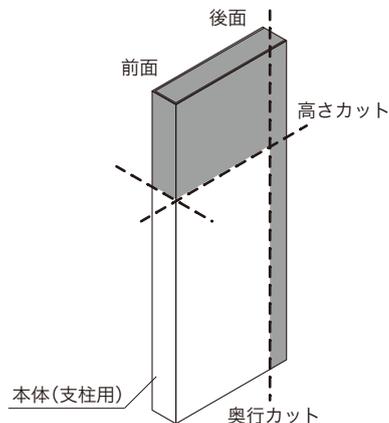
施工手順詳細: 5 本体の取り付け P10,11

5 支柱の作成

奥行を本体-5mm、高さは本体上面位置から本体分の厚さをマイナスしてカットします。

ご注意

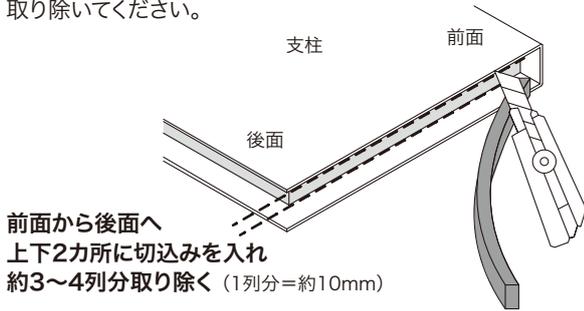
必ず緩衝材を取り付けたままカットしてください。取り除いた空の状態では正確な寸法でカットできないことがあります。



6 支柱の取り付け

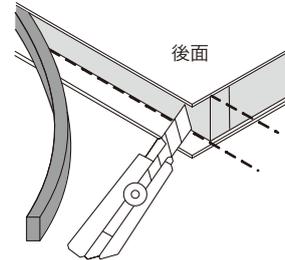
1 特殊強化芯材の取り除き

間口 受栈納まり部を作るため、特殊強化芯材を1列分毎に前面から後面方向・上下2カ所にカッターで切込みを入れ、受栈寸法分の約3~4列を取り除いてください。



前面から後面へ
上下2カ所に切込みを入れ
約3~4列分取り除く (1列分=約10mm)

奥行 後面に受栈納まり部が足りない場合は、上下に切込みを入れ、受栈寸法分を取り除いてください。



上下2カ所に切込みを入れ
受栈寸法分を取り除く

注意

それぞれ受栈端材を当て、サイズを確認しながら行ってください。取り除き面はカッター等で削り平滑にしてください。

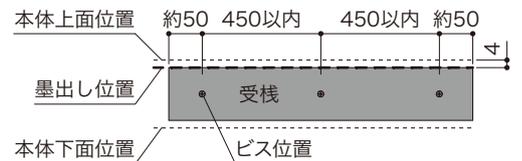
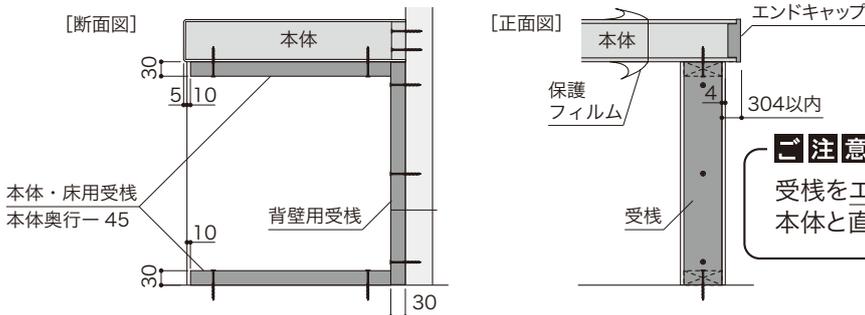
2 受栈のカット

背壁用受栈(本体下面から床面までの寸法)を1本、本体・床用受栈(本体奥行-45mm)を2本作ります。

3 受栈の固定

本体下部の保護フィルムをはがし、本体下部・背壁面・床に対し、ビスL=65で受栈を固定します。両端は側壁から約50mmの位置で固定、その他は450mmピッチ以内で固定してください。(右図寸法参照)

本体側・上部受栈は接着剤または両面テープ併用を推奨(現場調達)



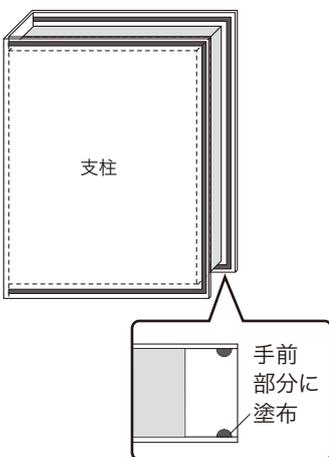
※上図は、背壁用受栈を表記しています。

注意

受栈をエンドキャップ端から20mm以上304mm以内に本体と直角になるように取り付けてください。

4 支柱 接着剤塗布

支柱と受栈の接合部に接着剤(現場調達)を塗布します。

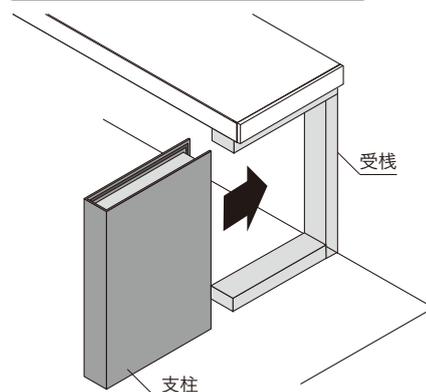


5 支柱取り付け

支柱を前から差し込みます。はみ出した接着剤は拭き取ってください。

注意

床面への接着剤はみ出し・差込時のすりキズに注意してください。



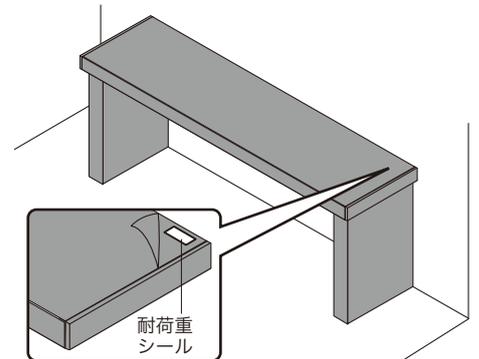
6 完成

水平器等で水平確認を行ない、フィニッシュネイルや隠し釘等を使用し仮固定します。受栈下部の接着剤がなじむように支柱等を入れ圧着してください。同梱されている耐荷重シールを本体上面奥の角部に保護フィルムを剥がし貼ってください。※保護フィルムは戻してください。

注意

段ボール等で表面保護し、最低24時間静置・養生してください。

養生後、周辺作業も終わってれば保護フィルムを剥がしてください。



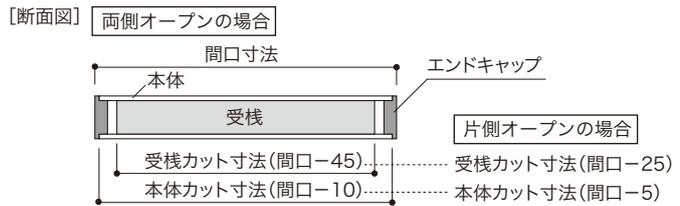
C リビアス40 [片側・両側オープン]

●説明は両側オープンの施工手順です。

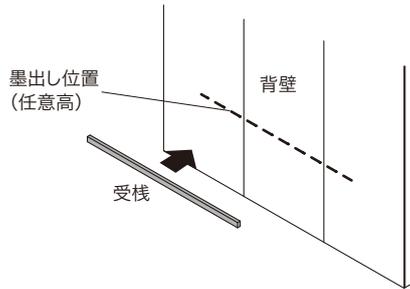
片側オープンの場合は **A** **C** の応用で施工してください。

●取り付ける間口に対する、本体・受棧・エンドキャップの寸法は右記の通りです。これを参考に施工を進めてください。

納まりについて [片側・両側オープン]



1 受棧の取り付け



1 取り付け位置の墨出し

背壁に任意の高さで受棧取り付け位置を墨出ししてください。(本体上面-4mm)

2 受棧のカット

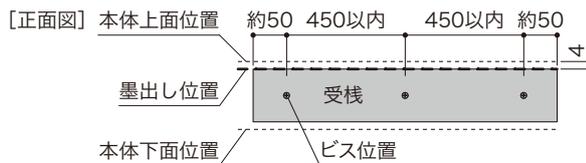
受棧をカットしてください。両側オープンの場合:間口寸法-45/片側オープンの場合:間口寸法-25 (詳細は上記 **納まりについて[片側・両側オープン]** 参照)

3 背壁への受棧取り付け

同梱のビスL=65で中心1箇所を固定します。確実に取り付けるため、接着剤(現場調達)の併用をおすすめします。両端は側壁から約50mmの位置で固定、その他は450mmピッチ以内で固定してください。

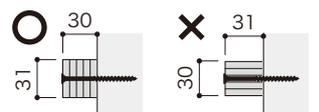
注意

高さ・水平・受棧のコケに注意。



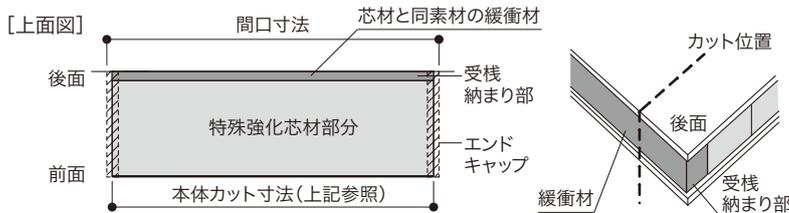
注意

受棧の取り付け向きにご注意ください。



2 本体のカット

間口 本体を間口寸法に合わせカットします。(詳細は上記 **納まりについて[片側・両側オープン]** 参照)



注意

必ず緩衝材を取り付けたままカットしてください。取り除いた空の状態ではカットすると正確な寸法でカットできないことがあります。

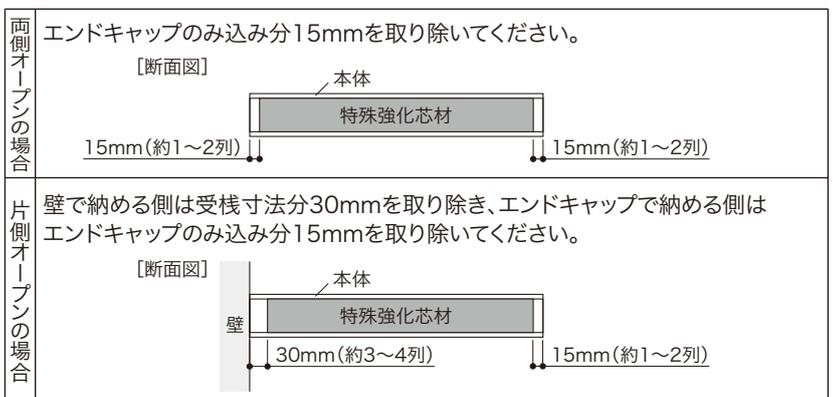
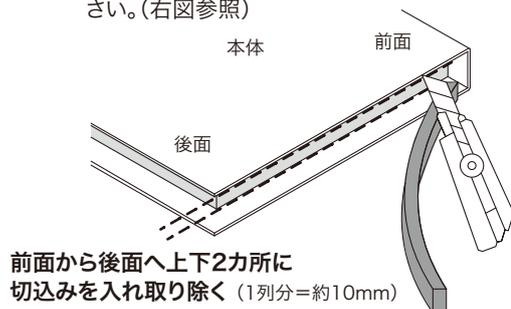
奥行

注意

奥行カット非対応

3 特殊強化芯材の取り除き

間口 特殊強化芯材を1列分毎に前面から後面方向・上下2カ所にカッターで切込みを入れ、取り除いてください。納まりごとに取り除く寸法が異なりますのでご注意ください。(右図参照)



注意

それぞれ受棧端材やエンドキャップを当て、サイズを確認しながら行なってください。取り除き面はカッター等で削り平滑にしてください。

4 本体の取り付け

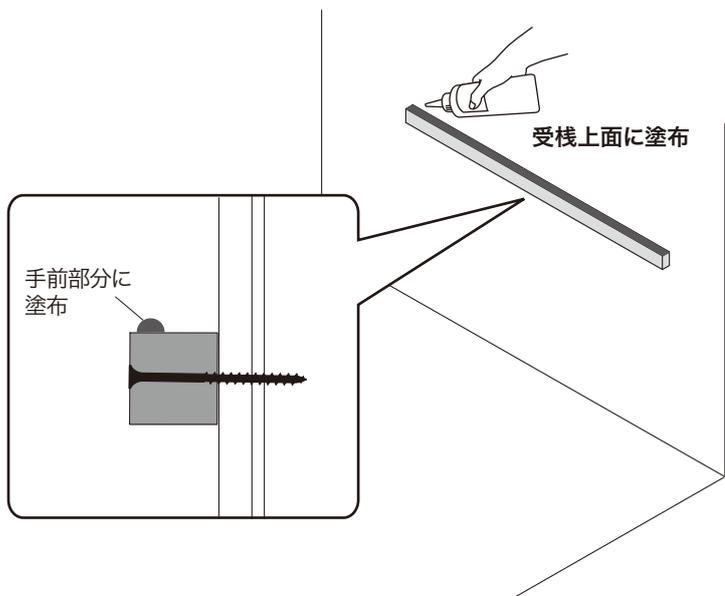
❗ 厳守する

接着剤は、受棧上面部と本体下部の両方に塗布してください。
本書に記載している位置に定められた量の接着剤を塗布しないと、受棧と本体が接着せず、垂れるおそれがあります。

1 受棧部 接着剤塗布

受棧上面部分・手前側に接着剤(現場調達)を塗布します。

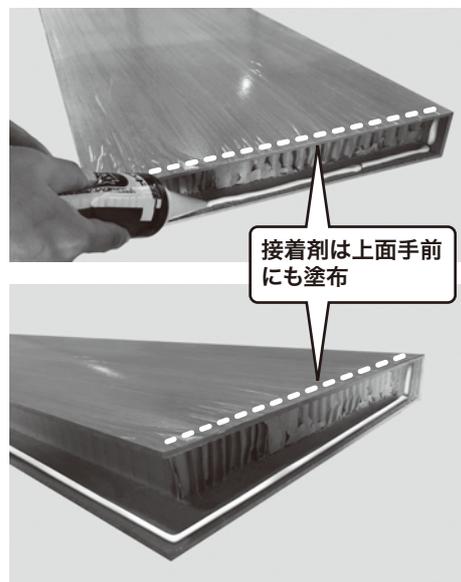
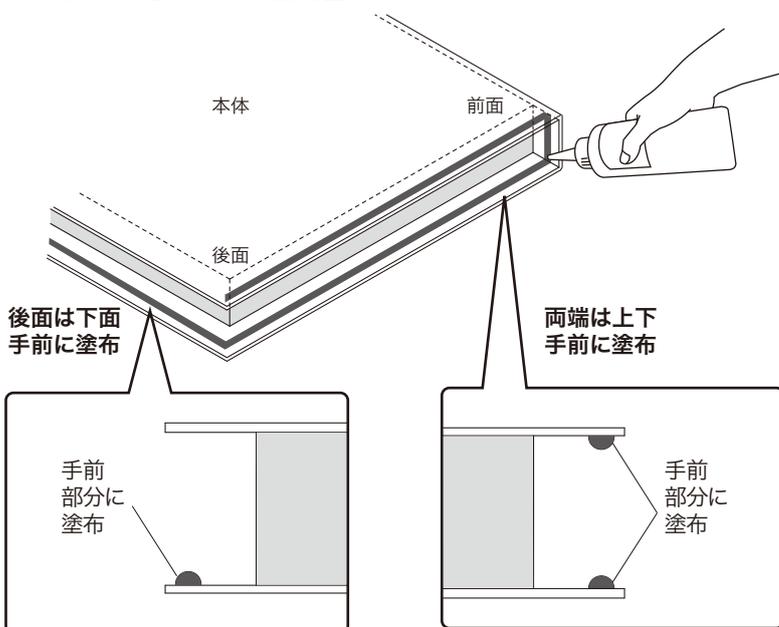
[施工イメージ]



2 本体後面・両端部 接着剤塗布

本体各部に接着剤(現場調達)を塗布します。

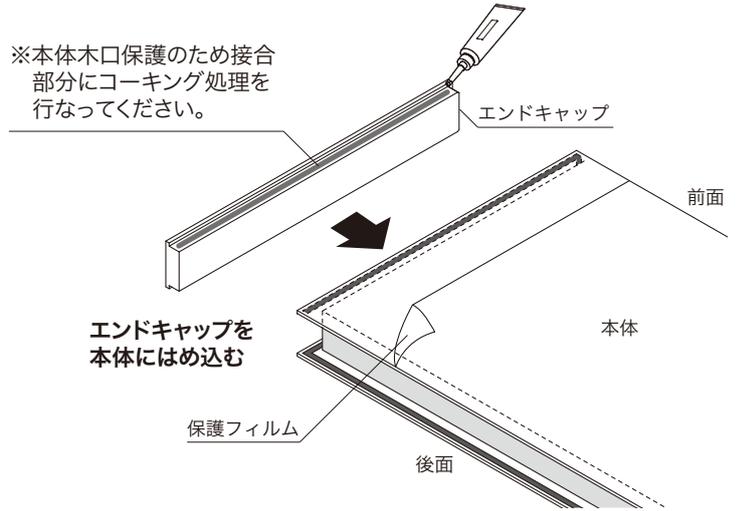
[施工イメージ]



※ 写真は、リピアス90です。

3 エンドキャップ取り付け

本体両端の保護フィルムをはがしてエンドキャップを固定してください。本体奥行をカットした場合、エンドキャップも同寸法分カットしてください。

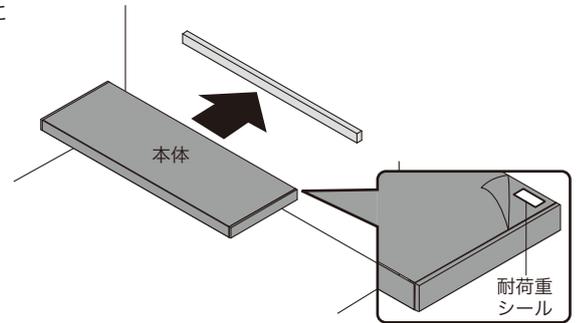


4 本体取り付け

受棧にそって本体を差し込みます。奥まで差し込み、はみ出した接着剤をウエス等できれいに拭き取ってください。

水平器等で水平確認を行ないフィニッシュネイルや隠し釘等を使用し仮固定します。受棧下部の接着剤がなじむように支柱等を入れ圧着してください。

同梱されている耐荷重シールを本体上面奥の角部に保護フィルムを剥がし貼ってください。※保護フィルムは戻してください。



注意

段ボール等で表面保護し、最低24時間静置・養生してください。

養生後、周辺作業も終わってれば保護フィルムを剥がしてください。

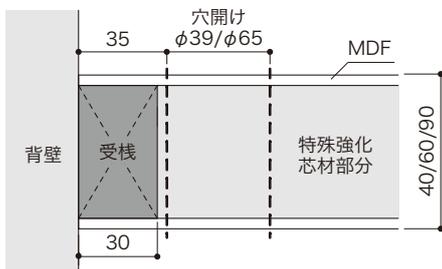
配線孔キャップセット

1 本体 穴加工

背壁側から35mm開けた位置で裏表のMDFにφ39またはφ65の穴を開け、強化芯材部分はカッターやドライバーなどを使い貫通させてください。

注意

配線孔キャップ用の穴開けは、必ず本体取り付け前に行なってください。配線孔キャップを複数取り付ける場合は、1M以上離して取り付けてください。

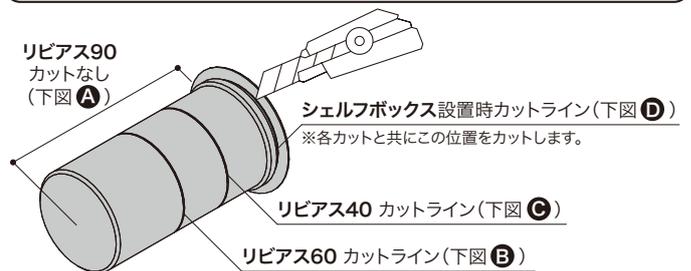


2 配線孔スリーブのカット

本体の厚みによりカット位置が異なります。下図を参考に配線孔スリーブをカットしてください。(※リピラス90に使用する場合はカット不要)

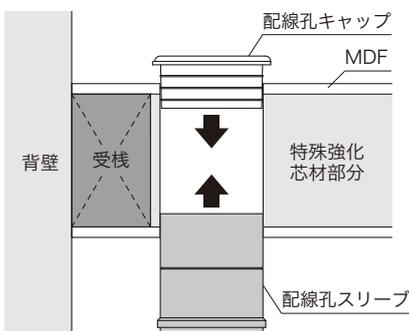
注意

配線孔スリーブを平面上に置いてカットすると破損・怪我のおそれがあります。

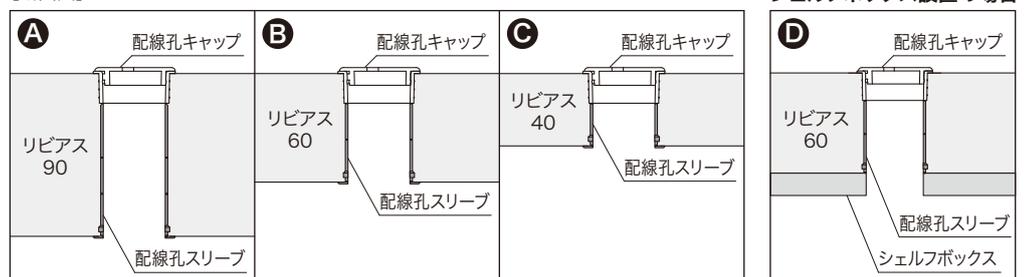


3 配線孔キャップセットの取り付け

表面に配線孔キャップ、裏面に配線孔スリーブをはめ込みます。裏面の配線孔スリーブをはめ込む際、確実に取り付けるためにコーキングや接着剤のご使用をおすすめします。



[断面図]

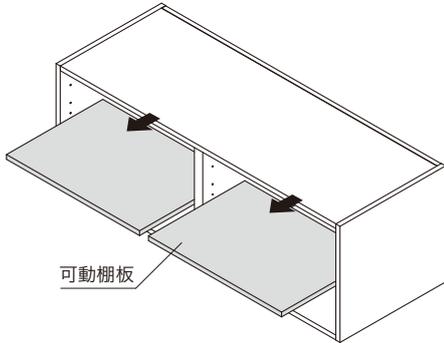


シェルボックス設置の場合

1 シェルフボックスBの取り付け (A)リビース下部に設置・(B)上部収納として設置 共通)

1 付属部品の取り外し

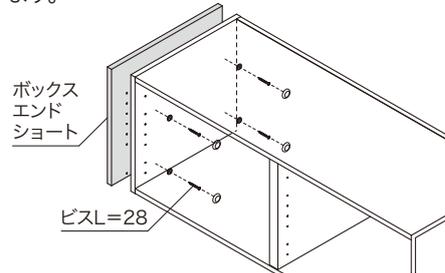
シェルフボックスBは可動棚板などが同梱されています。シェルフボックスBの固定前にそれらの付属部品を取り外してください。



可動棚板

2 ボックスエンドショートとの固定

シェルフボックスB同士を連結しない側にはすべてボックスエンドショートを取り付けます。ビスL=28にワッシャーを取り付け、ボックス内側から固定します。



ボックスエンドショート1枚あたり	
ビスL=28 (ビスキャップセット付)	4本

注意

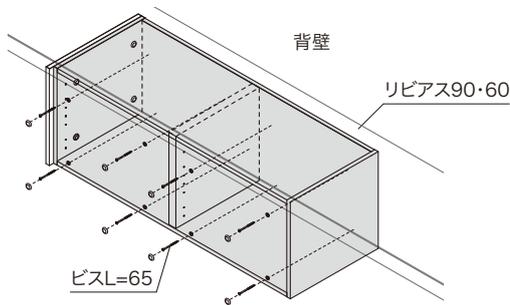
ボックスエンドショートには左右があります。ボックスエンドショート化粧面として使用する場合は、ダボ穴のない面を外側にして固定します。ボックスエンドショートの横に可動棚板を設ける場合は、ダボ穴がある面を外側にして固定してください。

(B) 上部収納として設置する場合

幅のせまいシェルフ(W=300mm以下程)を上部収納としてボックス横に設置する場合、上下棚板用の受皿をボックスエンドショートへ先に取り付けてからボックスに固定します。(7 シェルフの取り付け P22 参照)

3 背壁へシェルフボックスBを固定

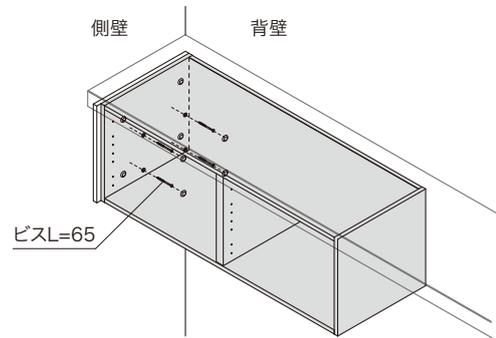
ビスL=65にワッシャーを取り付け、シェルフボックスBを背壁に固定します。



シェルフボックスB(W1020)	ビスL=65 (ビスキャップセット付)	8本	シェルフボックスB(W510)	ビスL=65 (ビスキャップセット付)	4本
------------------	------------------------	----	-----------------	------------------------	----

4 側壁へシェルフボックスBを固定(側壁設置の場合のみ)

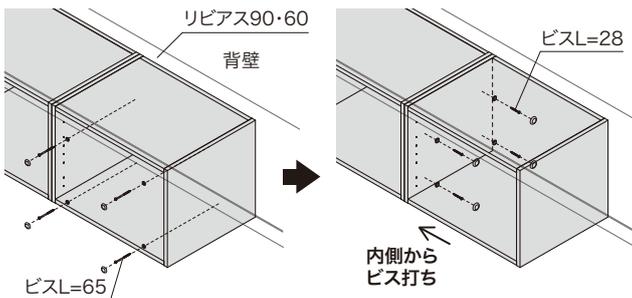
ビスL=65にワッシャーを取り付け、シェルフボックスBを側壁に固定します。



シェルフボックスB	
ビスL=28 (ビスキャップセット付)	4本

5 シェルフボックスB同士の連結(連結設置する場合のみ)

ビスL=65にワッシャーを取り付け、シェルフボックスBを背壁に固定します。その後、ビスL=28にワッシャーを取り付け、シェルフボックスB内側から固定してください。

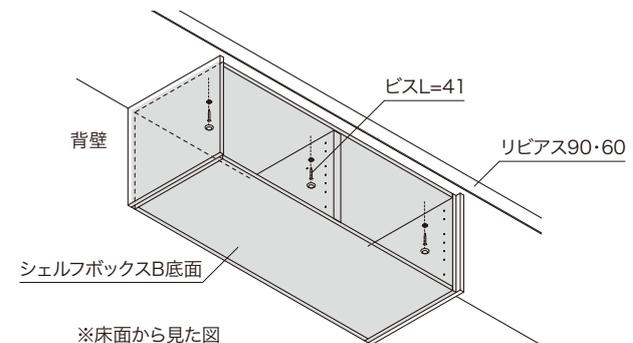


シェルフボックスB(W1020)	
ビスL=65 (ビスキャップセット付)	8本
シェルフボックスB(W510)	
ビスL=65 (ビスキャップセット付)	4本

シェルフボックスB	
ビスL=28 (ビスキャップセット付)	4本

6 リビース本体へ固定

ビスL=41にワッシャーを取り付け、下から本体に向かって固定します。

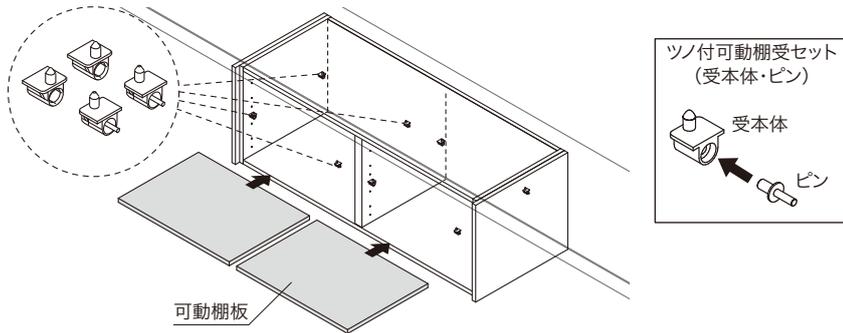


※床面から見た図

シェルフボックスB(W1020)	
ビスL=41 (ビスキャップセット付)	3本
シェルフボックスB(W510)	
ビスL=41 (ビスキャップセット付)	2本

2 シェルフボックスB内可動棚板の取り付け (可動棚板を設置する場合のみ)

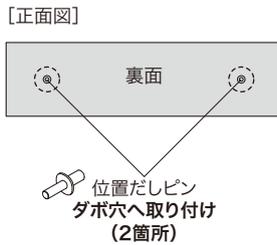
シェルフボックスBに同梱されているツノ付可動棚受セットの受本体にピンを差し込み、シェルフボックスB内部のダボ穴に取り付けます。可動棚板のダボ穴とツノをあわせて設置します。



3 ドrawerユニットの取り付け (ドrawerユニットを設置する場合のみ)

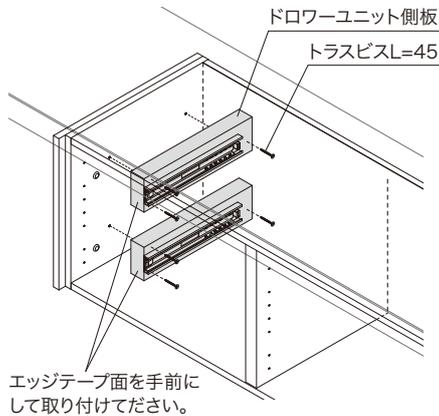
1 位置だしピンの取り付け

ドrawerユニット側板の裏面にあるダボ穴2箇所へ位置だしピンを取り付けます。

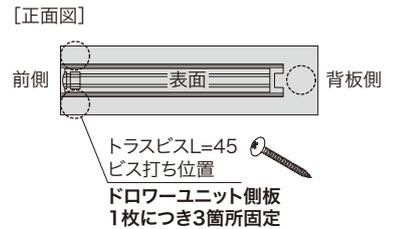


2 ドrawerユニット側板の取り付け

ドrawerユニット側板に取り付けた位置だしピンを側板(仕切板)のダボ穴に差し込み、その後、トラスビスL=45で側板を固定します。

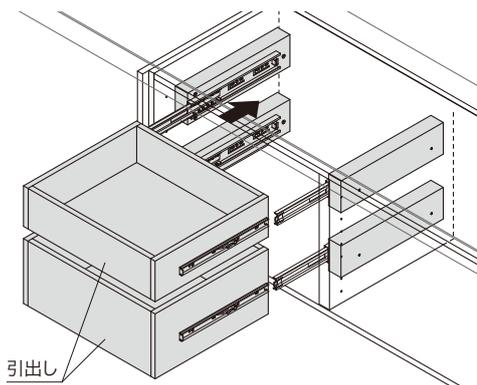


ドrawerユニット側板ビス打ち位置

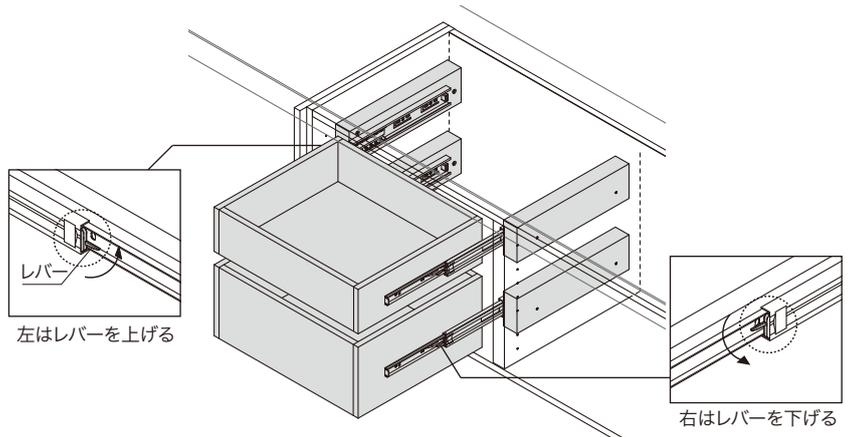


3 引出しの取り付け

引出しをスライドレールに差し込んでください。



引出しの取り外し方法



4 シェルフパネルの取り付け・調整方法 (シェルフパネルを設置する場合のみ)

注意

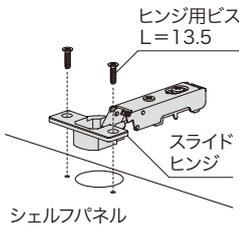
シェルフパネルは左右共通品です。上下反転させて使用します。

1 スライドヒンジの取り付け

シェルフパネルにスライドヒンジを同梱のビスで1枚につき2箇所取り付けます。

注意

電動式ドライバー使用禁止



2 座金の取り付け

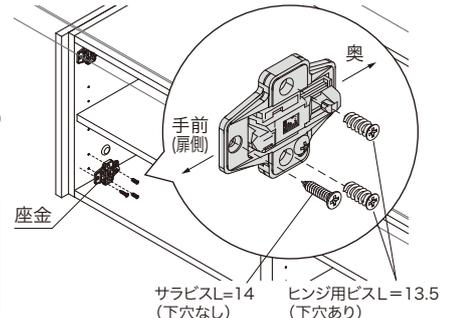
シェルフボックスBの側板のダボ穴に座金を同梱のビスで側板1枚につき2箇所取り付けます。

注意

電動式ドライバー使用禁止

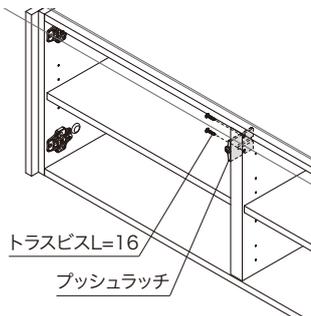


※ヒンジ用ビス L=13.5のみ



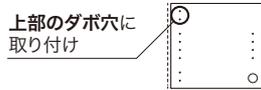
3 プッシュラッチの取り付け

仕切板(シェルフボックスB(W510)の場合は側板)のダボ穴にプッシュラッチをトラスビスL=16で取り付けます。



プッシュラッチ取り付け位置

A リブラス下部に設置する場合

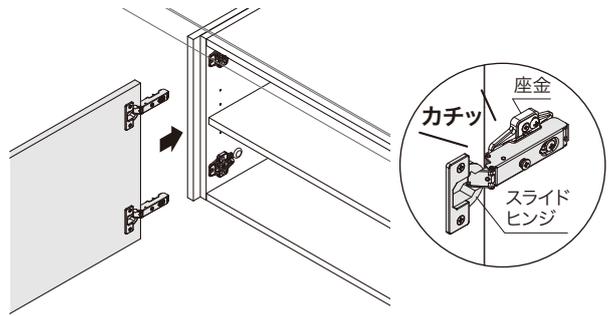


B 上部収納として設置する場合



4 シェルフパネルの取り付け

シェルフパネルを持ち上げ、座金にスライドヒンジを取り付けます。カチッと音がするまで押し込んでください。

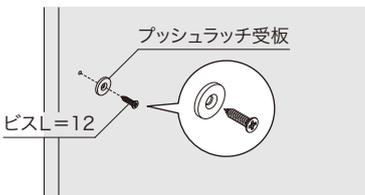


5 プッシュラッチ受板の取り付け

プッシュラッチ受板をシェルフパネルの下穴へ取り付けます。

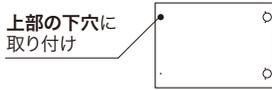
注意

電動式ドライバー使用禁止

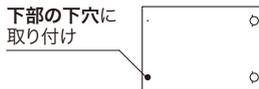


プッシュラッチ受板取り付け位置

A リブラス下部に設置する場合



B 上部収納として設置する場合

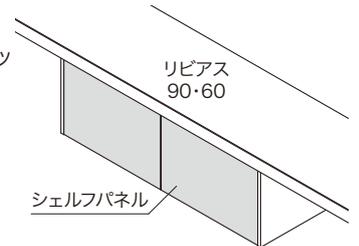


6 シェルフパネルの位置を調整

シェルフパネルを取り付け後、シェルフパネルとシェルフボックス側板のちりが均等になるように調整を行います。

注意

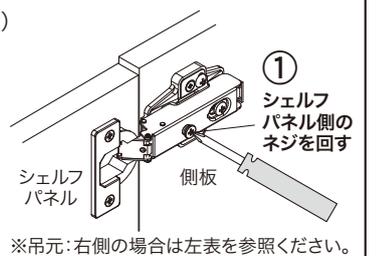
シェルフパネルの調整後必ず2~3回開閉し、確実に閉まっていることをご確認ください。



シェルフパネルの左右の位置を調整 (吊元: 左側の場合)

①のネジを左右に回してシェルフパネルの左右の位置を調整してください。

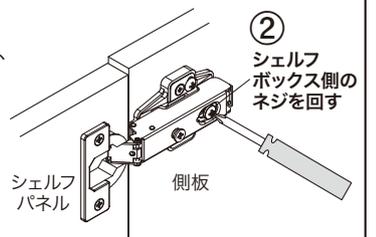
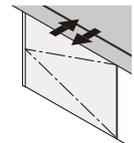
吊元	ネジ①	シェルフパネル
左側	右回し ➡	右に動く
	左回し ⇐	左に動く
右側	右回し ➡	左に動く
	左回し ⇐	右に動く



※吊元: 右側の場合は左表を参照ください。

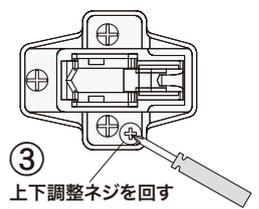
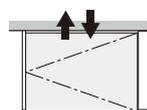
シェルフパネルとシェルフボックスの隙間を調整

②のネジをゆるめシェルフパネルを前後に動かして調整し、適正な位置で締め直して固定してください。



シェルフパネルの上下を調整

座金にある③のネジをゆるめシェルフパネルを上下に動かして調整し適正な位置で締め直して固定してください。



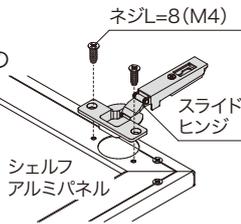
5 シェルフアルミパネルの取り付け・調整方法 (シェルフアルミパネルを設置する場合のみ)

注意

シェルフアルミパネルは左右共通品です。上下反転させて使用します。

1 スライドヒンジの取り付け

シェルフアルミパネルにスライドヒンジを同梱のビスで1枚につき2箇所取り付けます。



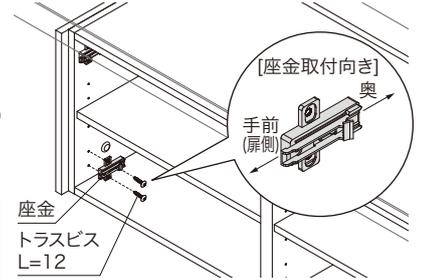
注意

電動式ドライバー使用禁止



2 座金の取り付け

シェルフボックスBの側板のダボ穴に座金を同梱のビスで側板1枚につき2箇所取り付けます。



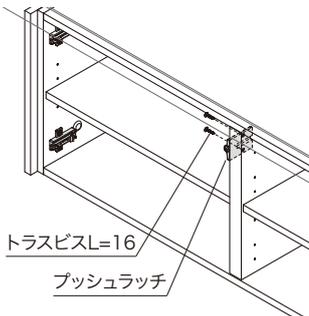
注意

電動式ドライバー使用禁止



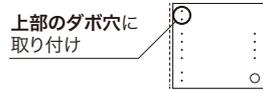
3 プッシュラッチの取り付け

仕切板(シェルフボックスB(W510)の場合は側板)のダボ穴にプッシュラッチをトラスビスL=16で取り付けます。



プッシュラッチ取り付け位置

A リブラス下部に設置する場合

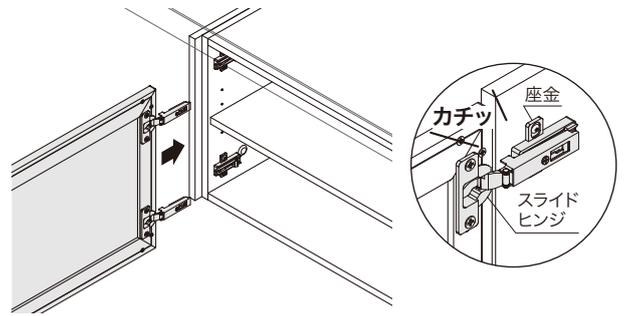


B 上部収納として設置する場合



4 シェルフアルミパネルの取り付け

シェルフアルミパネルを持ち上げ、座金にスライドヒンジを取り付けます。カチッと音がするまで押し込んでください。

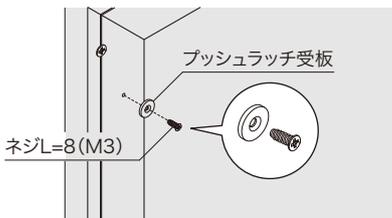


5 プッシュラッチ受板の取り付け

プッシュラッチ受板をシェルフアルミパネルの下穴へ取り付けます。

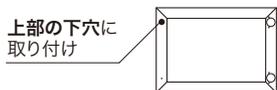
注意

電動式ドライバー使用禁止



プッシュラッチ受板取り付け位置

A リブラス下部に設置する場合



B 上部収納として設置する場合

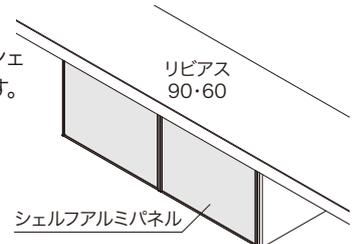


6 シェルフアルミパネルの位置を調整

シェルフアルミパネルを取り付け後、シェルフアルミパネルとシェルフボックス側板のちりが均等になるように調整を行います。

注意

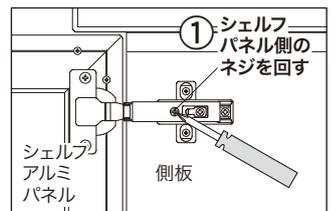
シェルフアルミパネルの調整後必ず2~3回開閉し、確実に付いていることをご確認ください。



シェルフアルミパネルの左右の位置を調整 (吊元: 左側の場合)

①のネジを左右に回してシェルフアルミパネルの左右の位置を調整してください。

吊元	ネジ①	シェルフアルミパネル
左側	右回し →	右に動く
	左回し ⇨	左に動く
右側	右回し →	左に動く
	左回し ⇨	右に動く

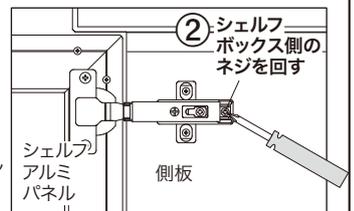
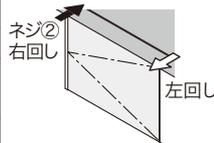


※吊元: 右側の場合は左表を参照ください。

シェルフアルミパネルとシェルフボックスの隙間を調整

②のネジを左右に回してシェルフアルミパネルの前後の位置を調整してください。

吊元	ネジ②	シェルフアルミパネル
左側	右回し →	奥に動く
	左回し ⇨	手前に動く
右側	右回し →	奥に動く
	左回し ⇨	手前に動く

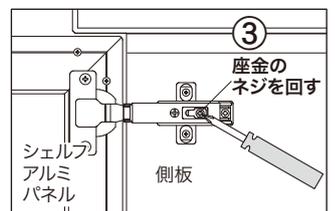


※吊元: 右側の場合は左表を参照ください。

シェルフアルミパネルの上下を調整

座金にある③のネジを左右に回してシェルフアルミパネルの上下の位置を調整してください。

吊元	ネジ③	シェルフアルミパネル
左側	右回し →	下がる
	左回し ⇨	上がる
右側	右回し →	下がる
	左回し ⇨	上がる



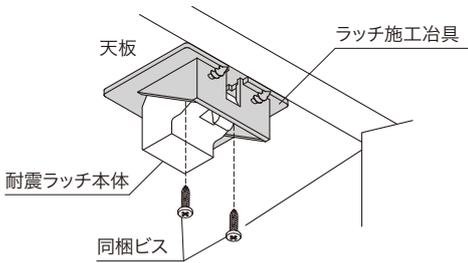
※吊元: 右側の場合は上表を参照ください。

6 耐震ラッチの取り付け (耐震ラッチを設置する場合のみ)

1 耐震ラッチ本体の取り付け

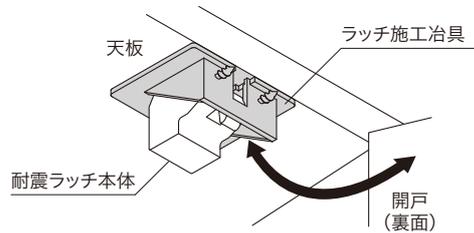
ラッチ施工器具を耐震ラッチ本体に組み合せ、ラッチ施工器具を天板の前面に合わせてから、同梱のビスで取り付けます。

※W方向は戸先側任意の位置とします。



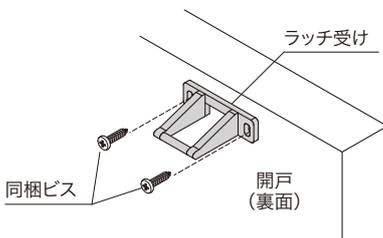
2 ビスの位置出し

ラッチ施工器具に付いているビスに開戸を押し付けて、ラッチ受けを取り付けるビスの位置出しをします。



3 ラッチ受けの取り付け

ラッチ施工器具で位置出しをした部分に同梱のビスでラッチ受けを取り付けます。ラッチ施工器具は最後に外してください。



本体と受けの取付位置のズレは、左右 $\pm 3\text{mm}$ 以内
上下 $\pm 1.5\text{mm}$ 以内になしてください。

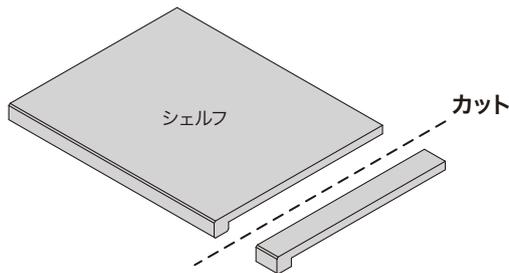
7 シェルフの取り付け (シェルフを可動棚として設置する場合のみ)

注意

シェルフボックスB+ボックスエンドショート(壁際の場合は側壁へボックスエンドショート)を設置してからシェルフの取り付けを行なってください。

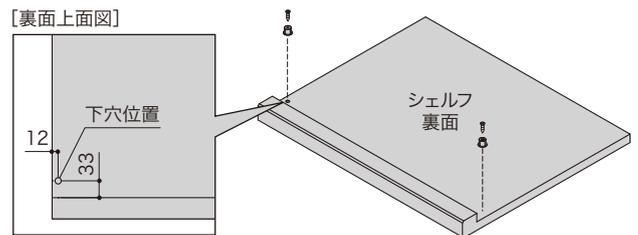
1 パーツのカット

シェルフを取り付ける間口に合わせてシェルフをカットします。



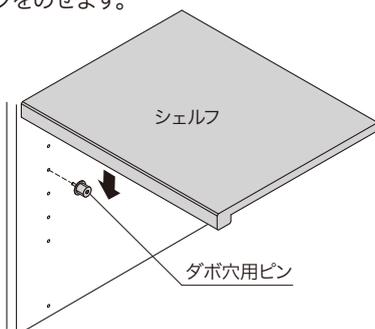
2 耐震用棚板ストッパーの取り付け

シェルフの裏面2箇所に下穴加工(下穴位置は下図参照)し、耐震用棚板ストッパーをビスL=20で取り付けます。



3 シェルフの設置

ボックスエンドショートのだぼ穴にダボ穴用ピンを差し込みシェルフをのせます。



建築基準法に基づくホルムアルデヒド発散等級

製品名：インテリアオープン収納 リビラス
(オプションパーツ含む)

製造者名称：南海プライウッド株式会社

発散区分：F☆☆☆☆

(下地部分：F☆☆☆☆)

住宅部品表示ガイドラインによる

ロット番号：製品梱包に記載

内装仕上部分	
ホルムアルデヒド 発散建築材料	発散区分
MDF	F☆☆☆☆
接着剤	F☆☆☆☆

下地部分	
ホルムアルデヒド 発散建築材料	発散区分
MDF	F☆☆☆☆
合板	F☆☆☆☆
パーティクルボード	F☆☆☆☆
接着剤	F☆☆☆☆

この製品は以下の建築材料で構成されています。

本体

部材・部位	材料名	表示区分	認定・ 登録種類	認定・ 登録番号	認定登録機関
リビラス グレインタイプ トライアンダー	オレフィン貼りMDF化粧板	F☆☆☆☆	自主表示登録	K-002445	(一社)日本建材・住宅設備産業協会
リビラス スタイラルタイプ	金属調MDF化粧板	F☆☆☆☆	自主表示登録	K-003065	(一社)日本建材・住宅設備産業協会

オプションパーツ

部材・部位	材料名	表示区分	認定・ 登録種類	認定・ 登録番号	認定登録機関
ボックスエンド	オレフィン化粧ランバー	F☆☆☆☆	自主表示登録	K-002704	(一社)日本建材・住宅設備産業協会
シェルフ	Vカット棚板	F☆☆☆☆	自主表示登録	K-002444	(一社)日本建材・住宅設備産業協会
シェルフボックス・ ドロワーユニット	MDF、パーティクルボード、 合板、接着剤	F☆☆☆☆	住宅表示ガイドラインに基づく		
シェルフパネル	両面オレフィン化粧MDF	F☆☆☆☆	自主表示登録	K-002865	(一社)日本建材・住宅設備産業協会

注意

この用紙は建築基準法に基づく納入部材の確認書類となりますので、大切に保管して工事責任者へ渡してください。

問合せ先：品質管理チーム 087-894-8025

NANKAI
NANKAI PLYWOOD

南海プライウッド株式会社

本社 〒760-0067 香川県高松市松福町1-15-10

首都圏営業グループ 首都圏 第1チーム TEL(087)825-3621 FAX(087)825-3645
首都圏 第2チーム TEL(087)825-3621 FAX(087)825-3645

西日本営業グループ 近畿営業チーム TEL(087)825-3623 FAX(087)825-3647
中四国営業チーム TEL(087)825-3624 FAX(087)825-3648
九州営業チーム TEL(087)825-3625 FAX(087)825-3649

東日本営業グループ 北海道・東北営業チーム TEL(087)825-3632 FAX(087)825-3695
関東甲信越営業チーム TEL(087)806-3660 FAX(087)825-3645
中部営業チーム TEL(087)825-3622 FAX(087)825-3646

特需営業グループ 特需 第1チーム TEL(087)825-3662 FAX(087)825-3669
特需 第2チーム TEL(087)825-3662 FAX(087)825-3669